



発行責任者:歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者:広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

## 昭和大学歯学部のPBL教育

口腔解剖学教室 中村 雅典

本学では後藤前歯学部長(現名誉教授)並びに前教育委員長岡野友宏教授のもと、平成15年度より、口腔の生態系と顎口腔顔面の構造・機能・異常のユニットで問題基盤型学習(Problem-Based Learning: PBL)を部分的に導入してきました。



PBL はご存じのように1960年代半ばにカナダのMcMaster 大学医学部で開始され、その後、国際的に医学部のみならず多くの学部で導入されてきています。この間、PBL を行う上で様々な方法論が開発されてきましたが、PBL の特徴とその本質に関しては1916年にすでに John Dewey によって述べられています。すなわち、PBL という教育手法は決して新しいものではないということです。これまでの教育において、教員は教育のために異常とも思えるほどの多くの労力・時間を割いてきました。しかしながら、学生の多くは学習に受動的であり、教員による方向付けや反応する機会を待つという状態にありました。このような教員主導型の教育では、学生が何か疑問に思った時、学生は何をすべきかを知りません。

PBL はこのような従来型の教育の弱点を克服するための教育・学習法です。PBL では学生はあるシナリオを提示され、グループ内学習・討論し、シナリオの問題の解決を行います。教員はシナリオ内の問題の選択やグループの活動を円滑かつ助長(facilitate)しますが、決してすべてのグループ内の活動に神経を使う必要はもはやありません。むしろ学生が更に理解を深めるために必要な学習項目を決定し、そのためのリソースを選択し、問題解決のためにどのように得た新しい知識を使うかということも facilitate します。その結果、学生は活発に自己学習を行い、シナリオの問題によって導かれた方向で考え、グループ内の学生、教員と議論・討論できようになり、学生はより深く知識・技能を獲得することになります。PBL では学生に提示するシナリオは歯学部の場合にはあくまで実際の患者さんのケースです。これにより、学生は臨床を行うのに必要な基礎的知識や理解を臨床と結びつけて学ぶことで、本当に臨床に役立てることができるようになります。また、学生は臨床にあたっての基礎歯科医学の重要性を認識することができます。更に、この教育を通して学生は、将来自分が遭遇するであろう新しい問題・知識にも正しく向き合うことができるようになります。

PBL はこれからの教育手段として絶対的な方法というものではありません。また、“これが正しい PBL の方法論である”というものもないと思います。CBT, OSCE など、目の前には問題が山積しています。しかし、学生が卒業してから10年、20年後の将来を考えたときに、従来型の教員主導型から学生主導型の教育への転換は我々教員として行わなくてはならない責務であろうと思います。岐阜大学、東

京女子医科大学、アデレード大学、今回視察してきた南カリフォルニア大学などで行われている PBL を参考にし、またこれまで行ってきた本学の PBL を基にして本学独自の新しい PBL の確立を行うことが必要だと思えます。

## 研修指導医講習会報告

総合診療歯科 長谷川 篤司

臨床研修指導歯科医養成のためのワークショップを8月27, 28日(土, 日)に昭和大学病院入院棟17階会議室で開催しました。本歯学部初の臨床研修指導医ワークショップでしたが、ディレクターの川和歯科病院長と7名のタスクフォース(久光, 五島, 菅沼, 中島, 堀田, 勝部, 長谷川)に加え、総合診療歯科3名, 外川事務長と管理課4名の協力を得て修了式までスムーズに進行することができました。

協力型臨床研修施設からの参加者24名は「管理型研修施設と協力型臨床研修施設の研修プログラムの連携」をテーマとした基本的なカリキュラムプランニングをグループ討議と発表を通して学びました。最初のうちはカリキュラムに使用される多くの教育用語や、指定時間内にプロダクトを作成しなければならないことに戸惑いを隠せなかったようですが、2日目にはこれら教育用語が共通言語となり、充実した発表や討論が交わされました。

また、1日目には厚生労働省の神光一郎先生に「新たな歯科医師臨床研修制度について」、2日目には北川昇助教授(高齢者歯科学)に「医療安全管理」の講演を行って頂き、新臨床研修制度への理解を深めました。

## 第2回歯学部進学相談会報告

入試広報委員長 山田 庄司

第2回昭和大学歯学部進学相談会(歯科病院見学)が8月27日(土)に、洗足の歯科病院で行なわれました。相談会は第2臨床講堂にて、午後1時から学部長の挨拶に続き、歯学部教育の特色、卒後の進路、教養部での学生生活、入学試験について約1時間にわたって説明がなされ、その後、8グループに分かれて歯科病院を約1時間見学しました。見学終了後、第1, 第2臨床講堂に分かれて個別相談が行なわれました。

参加学生は70名(父兄含め約100名)で、2学期が始まってから行なわれた昨年の第2回歯学部進学相談会よりも4名増加しました。参加学生の中には数名の高校2年がいて、個別相談で熱心に質問をしていました。こうした受験希望者を確保できるように、これからも優れた教育を行い、高い国家試験合格率を維持していく必要があります。

今年度はさらに第3回昭和大学歯学部進学相談会を9月23日(金)の秋分の日(旗の台)で行なう予定です。第3回昭和大学歯学部進学相談会は歯科病院見学の代わりに模擬授業が行なわれます。また10月15日(土)と16日(日)の旗が岡祭において4学部の進学相談コーナーを4号館に設ける予定です。

## 海外研修体験記 (アデレード大学)

歯学部4年 武井 美咲

海外での歯科医療の実際や歯科医療を英語で学びたいと思っていた所、今夏初めてのアデレード大学歯学部における海外実習・研修の募集があり応募いたしました。



アデレード大学歯学部は5年制で、学生は1年生が約100人、2年生が約70人、3年生から上は50人程度で、総勢320人程度の学生が在籍しています。学生の7割くらいは東洋系の顔立ちをした学生で、留学生も多く、私が話をした学生の中にはシンガポールやマレーシアから来た学生もいました。言葉に関しては、少し訛りのある英語で初めは聞き取りにくい単語もありましたが、こちらからの話はスムーズに受け取って頂けたので、精神的には楽に過ごせました。

研修の内容は病院での臨床実習、実習室での基礎実習、PBL ( Problem Based Learning ) の見学でした。臨床実習は1年生の Perio の相互実習や4年生の保存・補綴の治療、5年生の General Dental Practice を見学しました。実習室での基礎実習では、1年生の Minimal Intervention Dentistry、2年生の咬合器やフェイスパウに関する実習、3年生の Operative Techniques の見学、4年生の矯正学の実習を見学しました。PBL は1年生の Dental Fear & Anxiety をテーマにしたものと、2年生の Local Anesthetics ( LA ) をテーマにしたものを見学しました。既に授業や実習で学んだものが殆どでしたので、見学や実習に参加させて頂いても復習となる科目が多く、余裕を持って望む事が出来ました。

アデレード大学では卒業する前から学生が一人で患者さんの治療に当たり、tutor と呼ばれる先生方に最終チェックをしてもらう、という形態の臨床実習を行っているため、卒業の時点でかなりの患者さんを診ることになります。また、1年生から Clinic に出て、そこで学生同士でユニットを用いた相互実習を行うため、入学した後の早い段階から歯科医師としての自覚が湧き、患者さんの扱い方に慣れていくのではないかと感じました。臨床実習では特に患者さんへの接し方や、話しかけ方、態度、また Infection Control や Dress Code の教育が徹底している事など、得る所が沢山ありました。この3週間の間にも考え方の違いや肌の色の違いを超えて沢山の友達ができました。そして、歯科医療に関する話には興味が尽きませんでした。

最後に、この海外実習・研修を実現して下さった宮崎歯学部部長を始め、歯科放射線学教室の岡野教授、顎口腔疾患制御外科学教室の片岡先生、後藤元歯学部部長、そして個人相談に耳を傾けて下さいました指導担任の五十嵐教授やその他ご支援を下さいました多くの方々から感謝いたします。



## 海外研修体験記 (アデレード大学)

歯学部3年 小野 岳人

アデレードはサウスオーストラリア州の州都で、7、8月の気温は13-18、時折シャワーと呼ばれる弱い雨が降っていました。州都といってもそれ程都会というわけではなく、昔の建物や緑が多い地方都市という雰囲気でした。私達が滞在したノースアデレードは高い建物も無く、静かな街並みが続いていました。アデレード大学はそこから徒歩25分の所にあり、臨床力のある学生を育成するために入学直後から PBL と臨床実習を導入しているのが特徴の大学です。今回の実習・研修目的はアデレード大学歯学部のカリキュラムを体験し、それについて考察し、昭和大学のものと比較することにあります。



つぎに実習に参加して気づいたことについて記載します。学生はPBLに対して積極的に活発に議論していました。私は3つのクラスのPBLに参加しました。その内2つに関しては、ディスカッションに参加するのに十分な知識を持ち合わせていたのですが、学生のペースに合わせるのが困難で発言する機会は少なかったように思います。また、後の1つはテーマが局所麻酔で未習であったため不明な点が多かったのですが、学習項目の調査を通じてフォローすることができました。ラボにおける実習では抜去歯を用いていたので各々の状況が異なり、PBL 同様自分で考えながら実習に取り組みました。現時点で材料学と保存修復学を学習していたので、それを実践する良い機会となりました。病院実習では4、5年生の診療を見学しましたが、臨床の知識が無いため4、5年生の差等分らないことが多かったように思いました。ただ、学生は4年生の段階でかなりのことを一人で行なうことができるようになってきていると思いました。

以上のことより、臨床中心のカリキュラムによりアデレード大学歯学部は臨床力のある学生を育成することに成功していると考えられますが、私が見た限りでは知識を体系的に習得する機会が無かったので、昭和大学で同様のカリキュラムを導入する際には講義を減らすことによる弊害について、十分考慮する必要があると考えられます。

アデレード大学で多くのことを学びましたが、それ以外にも観光に行くなど、大変充実した時間を過ごすことができました。最後に留学に際してお世話になった関係者の皆様に心より感謝の意を表します。





## D6 学外選択実習報告

歯学部6年 金井 美有記

私が夏休みの選択実習でお世話になったのは、上野駅前にある東上野歯科クリニックです。「オリコンNo.1の歯科医院には必ず他の医院とは違う何かがある」と思い、実習を希望しました。



院長の村岡先生は剣道家なので、入り口と受付には竹刀と防具がある特徴的な歯科医院でした。1週間を通じて感じたのは、院長先生とスタッフの方々がお互いに信頼・尊重しあえる関係にあるため、治療がスムーズに行えて院内の雰囲気がとても良いことでした。それには、一人一人のマンパワーが非常に大切だと思いました。また、このような雰囲気を感じ取って、患者さんも信頼して下さるのではないのでしょうか？さらに、東上野歯科クリニックでは、それぞれの患者さんに対して、その時に一番必要としている治療をその道の専門家に任せるというシステムをとっており、質の高い医療を提供しているので、患者さんは魅力を感じるのだと思います。

今回の実習で開業されている先生の考え方や真摯な治療姿勢を学ぶことができ、とても勉強になりました。ポリクリでは「自分はまだ学生だから誰かが助けてくれる」と思っていたところが大きかったと思います。これから社会人になるにあたって、患者さんにより良い接し方・治療が行えるように努力してゆこうと思います。

最後になりますが、この実習を実現させてくださった東上野歯科クリニックの村岡先生をはじめスタッフの方々、高齢者歯科の佐藤教授にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

## D6 学外選択実習報告

歯学部6年 小峰 伸太郎

この度、私はポリクリ選択実習として東京都立荏原病院を8月1日から5日までの5日間選択致しました。第1回目ということで、実習内容もわからず、受け入れ先の先生方にも多大なご迷惑をおかけいたしました。多くの先生方のご協力をいただき5日間の実習が大変充実したものとなりました。

実習内容としては、診療アシストが多くを占めます。色々な先生の診療を見学させていただくことは非常に勉強になりました。荏原病院はユニット7台に常勤の先生が3人と臨床研修医の先生が1人いらっしゃいます。その他に非常勤の先生方も多く、昭和大学の先生もいらっしゃいました。常勤の先生方は麻酔、補綴、口腔外科とそれぞれ担当がありますが、普段の外来では関係なく色々な患者さんを診ていらっしゃったのが印象的でした。また、木曜日はオペ日で、貴重な症例を見学させていただくこともできました。

普段、昭和大学では体験できないことを今回の実習で経験できたことは、今後の自分の進路を決める上でも非常に有意義であったと思います。我々第1回目の選択実習の成果を踏まえて、今後さらに発展していくことを期待しております。

## D5 新臨床実習開始

共同診療室 ヘッドインストラクター 塚崎 弘明

去る8月8日(月)より、D5の新臨床実習が始まりました。かつては歯学部で普通に実施されていた診療参加型の臨床実習ですが、ここ数年は見学主体の実習になっていました。しかし、良質な歯科医師を育成する為には早期より臨床経験を積ませるのが不可欠です。歯科病院4階の「共同診療室」ではインストラクターが診療にあたるとともに院内生もスタッフの一員として参加しています。初日は室温30度を超える猛暑の中、不慣れな学生とインストラクターで大混乱の中のスタートとなりました。しかし、1ヶ月余り経過した現在、学生もインストラクターも大分落ち着きを取り戻しています。昨年度までの実習と大きく異なる点は、学生の実習に対する意欲的な姿勢です。空いている時間には学生が自主的に相互実習を行う、欠席者対象の土曜日の補習にも積極的に参加する、環境整備の提案や手伝いをしてくれるなど、想定外の事態にこちらが驚いています。まだまだ、不備な点も多々ありますが少しずつ改善し、来年度以降に繋げていければと考えています。



4階の皆様には何かとご迷惑をおかけしておりますが、より良い実習を実現するために今後とも皆様方の御協力をお願い申し上げます。

## 昭和大学公開講座(10月)のお知らせ

広報委員長 五十嵐 武

「第8回 歯科病院公開講座」

日時:平成17年10月15日(土), 13:00~15:30

場所:昭和大学歯科病院6階 第二臨床講堂

(第一講演)

演題:【いつ?どのように?いくらかかるか?歯列矯正のすべて】

講師:昭和大学歯学部教授(歯科矯正学) 榎 宏太郎

(第二講演)

演題:【健康増進、歯周病と全身のつながり】

講師:昭和大学歯学部教授(歯周病学) 山本 松男

(講演終了後)

歯科衛生士による簡単な口腔の清掃および口腔衛生指導

15:30~終了(希望者のみ)

「第17回 富士吉田公開講座」

日時:平成17年10月15日(土), 13:30~17:00

場所:昭和大学富士吉田校舎1号館2階201号室

演題:【むし歯と上手につき合うには

(早期発見、経過観察と接着歯学を活かしたMI)】

講師:昭和大学歯学部助教授(総合診療歯科) 長谷川 篤司

## 私の留学生活

張 祖太 先生

あっという間に8年目になりました。私は張 祖太です。1988年に中国山東医科大学口腔医学院(今の山東大学口腔医学院)を卒業した後、専門の歯科病院に勤務しました。

1997年4月歯科材料や技術を学ぶために、昭和大学歯学部歯科理工学教室の宮崎先生のご指導で勉強しに来日しました。2003年6月に久光先生の保存修復学教室で歯学博士学位を獲得しました。同時に日本学術振興会の外国人特別研究員を申請することができて、2003年9月から2005年8月まで再び歯科理工学教室で宮崎先生のご指導で“産業廃棄物を軽減できる歯科鑄造用埋没材のリサイクルに関する基礎研究”を行いました。

留学生生活を振り返ってみると、先生方の私に対する研究や日常生活まで応援してくれることなどをとても感謝しております。特に玉置先生のご指導、ご鞭撻を頂き、充実した生活を送ることができました。皆様のおかげで多大な研究成果を挙げることもできました。在日の間、何度も日本歯科理工学会、歯科チタン学会および国際歯科チタン研究会、IADRなどの学会で発表し、さらに国際雑誌で何篇かの論文を発表しました。そのうちの三つの研究成果は特許申請中でございます。

中国に帰ったら、昭和大学で習得した知識をできるだけ活かして、中国の歯科医療の向上と発展に努め、日中両国間の歯科医学の交流を深めることに貢献して参りたいと思っています。

最後に、留学中に大変お世話になった宮崎教授、久光教授、玉置先生、堀田先生、李先生、柴田先生、井上先生および歯科理工学教室と一緒に学んだ大学院の先生たちのご指導とご親切に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。日本での楽しい日々を私は決して忘れません。また会いましょう。



## 学会開催のお知らせ

広報委員長 五十嵐 武

・向井 美恵 大会長(口腔衛生学講座教授)

第54回日本口腔衛生学会・総会

2005年10月6, 7, 8日,

品川区立総合区民会館「きゅりあん」

・久光 久 大会長(齶蝕・歯内治療学講座教授)

日本歯科保存学会50周年記念大会ならびに2005年度秋季大会(第123回)

2005年11月23, 24, 25日, 東京国際フォーラム

## 報道された歯学部

広報委員長 五十嵐 武

・井上美津子先生:毎日新聞 2005.9.12

「はてなの玉手箱:永久歯が生えない子ども(10人に1人)という調査も」

## 診療統計

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,726	709.0	762.4	697.6
入院患者	547	17.6	11.2	21.6

平成17年8月分

## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

10月 1日(土):大学院歯学研究科入学試験・語学試験

10月 3-7日(月-金):歯学部1年生早期体験実習

10月 4-6日(火-木):職員定期健康診断

10月 8日(土):臨床研修歯科医師採用試験

10月 12-14日(水-金):職員定期健康診断

10月 15, 16日(土,日):昭和大学4学部進学相談会

10月 21, 22日(金,土):2005年度歯科医師臨床研修指導歯科医全身管理講習会

10月 29日(土):臨床研修歯科医師採用試験

11月 5, 6日(土,日):第2回昭和大学歯科病院臨床研修指導歯科医師講習会ワークショップ

11月 15日(火):創立記念日

11月 26日(土):父兄会秋季部会(旗の台キャンパス)

11月 29-1月 17日(火,6回):歯学部3年生歯科病院見学実習(歯科診療の基本・実習)

12月 3日(土):昭和歯学会例会(洗足キャンパス)

## 編集後記

広報委員(歯周病学講座) 小林 誠

ここ数年の歯科界を取り巻く大きな環境変化の中で、望まれる歯科大学・歯科病院のあり方がより明確になってきている実感があります。その1つは、倫理性・社会性が高く、高度な医療技術を身につけた良質な歯科医師の養成であり、また地域医療施設の中核として必要とされる専門性の高い医療の提供であり、更にはより効果的で新規性の高い診断・予防・治療法の研究・開発であることは言うまでもありません。これら早急には現実化することが容易ではない社会からの要望に応えるために、大学人として私自身どの様に貢献できるか?を再考しながら、この「歯学部だより」を編集致しました。今月号では学生による海外研修や学外選択実習の体験記を掲載致しました。大学の活性化には優秀な人材の養成が不可欠ですが、これらの体験記の中に今後の教育改革の方向性が示されていると感じるのは私だけではないでしょう。